

介護福祉科

【授業科目名】 人間の理解B		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 多田 智栄子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 人間の多面的な理解を基礎にして、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎、チームで働くことの理解と能力を培い、実践で行うことをイメージできる。			
【授業の概要】 対人関係を形成するためのコミュニケーションとその能力スキルの特徴や機能について、また基本的態度や援助関係となるための原則を明確化し、質の高い介護サービスは組織が支えていることを理解する			
【授業計画】 第 1回：人間関係とコミュニケーション…発達心理学から見た人間関係について 第 2回：人間関係とコミュニケーション…社会心理学から見た人間関係について 第 3回：人間関係とコミュニケーション…人間関係とストレス 第 4回：対人関係におけるコミュニケーション…コミュニケーションにおける基本構造 第 5回：対人関係におけるコミュニケーション…コミュニケーションの手段 演習：2-3・4 第 6回：対人援助関係とコミュニケーション…対人関係の基本となるコミュニケーション 第 7回：対人援助関係とコミュニケーション…対人援助における基本的な態度 第 8回：対人援助関係とコミュニケーション…援助的人間関係の形成とバイステックの7原則 第 9回：演習：2-5・6 第10回：組織におけるコミュニケーション…「組織」の条件とコミュニケーションの特徴 第11回：組織におけるコミュニケーション…組織の情報の流れ 第12回：組織におけるコミュニケーション…組織において求められるコミュニケーション 第13回：組織におけるコミュニケーション…演習2-7 第14回：組織におけるコミュニケーション…組織におけるチームマネジメントとの関係 第15回：まとめ 「ブレインストーミングをやってみる」 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規			
【参考書・参考資料等】 適宜 プリントなどの資料を配布する			
【学生に対する評価】 平常評価（平常の授業の中での小テストなどを5回実施）10点×5 定期試験50点			

【授業科目名】 人間の理解C (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 中嶋 昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 ①組織の運営と管理：福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる。実習経験を事例に、ケアを展開するために必要なチームの構造や役割について説明できる。 ②人材の育成や活用：チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。実践力を高めるに必要な、人材育成・開発のしくみ・方法について理解できる。介護福祉士の多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。 ③リーダーシップとフォロワーシップ：チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーシップとフォロワーの役割について説明ができる。様々な介護サービスの事例を活用し、業務課題の発見と過程をイメージできる。			
【授業の概要】 介護実践は、介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、介護実践をマネジメントするために必要な「①組織の運営と管理」「②人材の育成や活用」、それらに必要な「③リーダーシップとフォロワーシップ」など、チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメント理解と解決に向けた考え方を得るために役立ちます。リーダーシップやフォロワーシップの知識は、解決に向けてチームで具体的な行動を生み出すための力になります。これらの学習を通して、皆さん自身のキャリアデザインを描く機会となることも期待している。			
【授業計画】 第1回：介護サービスの特性と求められるマネジメント 第2回：チームマネジメント基本 第3回：ケアを展開するために必要なチーム 第4回：実践力を高めるためのチームマネジメント 第5回：チームワークに必要なリーダーとフォロワー 第6回：介護職としてのキャリアデザイン・小テスト 第7回：キャリア開発のしくみ 第8回：キャリア開発と自己研鑽 第9回：福祉サービスと事業所組織 第10回：事業所組織の機能と役割① 第11回：事業所組織の機能と役割② 第12回：事業所組織の経営・小テスト 第13回：地域におけるチームマネジメント 第14回：業務課題の発見と解決方法①			

第15回：業務課題の発見と解決方法②

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解 介護福祉士養成講座編集委員 中央法規出版株式会社
9784805857618

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

演習課題 30% ・ 小テスト 20% ・ 定期試験 50%

【授業科目名】 レクリエーション活動法		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 田川 雅規
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを表現し、相手に向けて「伝える」から「伝わる」を実践できるようになる ・コロナ禍の中であっても考え工夫し、対象者や自分が楽しめるプログラムの実施が出来るようになる ・レクリエーションという言葉にとらわれない「関わり支援」の方法を身につける ・人の心を動かすためには何が必要かを理解し、企画・実践できるようになる 			
【授業の概要】 常に実習を想定しながら授業を進めるため、全講義が実践参加型となる。実習先や介護現場で何が求められているのかを知り、対象となる人や場面を想像し、考え、個人やグループで練り上げる。計画立案、準備、プログラムを実施するまでのプロセスの重要性を理解し、対象者に行動や、関わる人の心を動かせることができるような力を養う。			
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション 心と身体を動かすレクリエーション① 第 2 回：コロナ禍の中でも楽しめるレクリエーション+理論 第 3 回：「座ったまま」の強みを活かすレクリエーション+理論 第 4 回：「相談」しながら楽しむレクリエーション+理論 第 5 回：待ち時間を愉しむレクリエーション+理論 第 6 回：アナログゲームの活かし方 第 7 回：歌や音楽、音を使ったレクリエーション+理論 第 8 回：中間実技試験 + コミュニケーションデザイン① 第 9 回：リラクゼーションとレクリエーション+理論 第10回：心と身体を動かすレクリエーション② 第11回：イメージを表現する 第12回：得意を役割に換える理論 第13回：「伝える」を「伝わる」に変換する 第14回：製作から発展させる関わり方+理論 第15回：総まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ISBN番号：978-4-89309-395-0 テキスト名：じょうぶな頭とかしい体になるために 著者名：五味太郎 出版社：ブロンズ社			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 実技試験（40％）・レポート（50％）・提出物（10％）			

【授業科目名】 臨床心理学入門		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 木戸 里香
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 臨床心理学の基礎理論に触れながら、「自分」と「他者」との関係性を考える機会とし、自己理解をもとにして他者理解を目標とする。講義における心理的援助の体験を通して、介護福祉現場において臨床心理学的な人間理解を深められるようにする。			
【授業の概要】 臨床心理学の基礎理論、アセスメントの意義と心理検査、介入方法について学ぶ。心理的援助の方法について掘り下げ、実際の介護福祉現場で必要とされる臨床心理学の技法の応用を学習する。			
【授業計画】 第1回：臨床心理学 オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第2回：自己理解① 意識と無意識 第3回：自己理解② パーソナリティ理論 第4回：基礎理論① 精神分析 第5回：基礎理論② クライアント中心療法 第6回：基礎理論③ 認知行動療法 第7回：心理アセスメント① 質問紙法 第8回：心理アセスメント② 投影法 第9回：心理的援助① カウンセリングと傾聴 第10回：心理的援助② 個別的なアプローチ 第11回：心理的援助③ 集団的なアプローチ 第12回：事例研究発表① 研究発表と各々の相互評価 第13回：事例研究発表② 研究発表と各々の相互評価 第14回：事例研究発表③ 研究発表と各々の相互評価 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 プリントを配布する。			
【参考書・参考資料等】 吉川 悟 編著 『対人援助における臨床心理学入門』（ミネルヴァ書房）			
【学生に対する評価】 定期試験 50% 研究発表 20% 授業中のワーク提出 20% 授業への取り組み姿勢 10% 上記を総合して評価する。			

【授業科目名】 介護の基本Ⅱ (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 中嶋 昭典 他
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 1 介護サービス提供の場について種類や機能を説明できる 2 介護実践におけるターミナルケアと多職種連携、地域連携の果たす役割を理解できる。 3 普通救命技能を身につける。 4 利用者及び介護に関わる人の健康管理について必要性・具体策を理解できる。			
【授業の概要】 介護サービス提供の場について実際に管理・指導的立場で活躍している職員を講師に招いて、より実践的・専門的な立場の特性を具体的な事例を通して学ぶ。地域高齢者との文化交流を通して生活の理解を深める。多職種連携、地域連携を実例から学びケアマネジメント、介護サービスの特性を学ぶ。			
【授業計画】 第 1 回：介護サービスの場の特性（救護・サ高住） 第 2 回：介護サービスの場の特性（地域密着型・有料） 第 3 回：生活を支えるフォーマルサービス 第 4 回：生活を支えるインフォーマルサービス 第 5 回：地域連携 第 6 回：感染症対策① 第 7 回：感染症対策② 第 8 回：利用者の尊厳とは 第 9 回：利用者理解とは 第10回：普通救急救命講習 第11回：普通救急救命講習 第12回：介護サービスの場の特性（障害） 第13回：介護サービスの場の特性（特養、デイ） 第14回：保健・医療・福祉職の役割と機能 第15回：認知症サポーター養成講座 第16回：多職種連携・協働の実際 第17回：ダンス・ダンス 第18回：高齢者の化粧療法プログラム体験 第19回：介護サービスの場の特性（GH, 小規模多機能） 第20回：ケアニン 第21回：ケアニン			

第22回：多職種連携・協働の必要性
第23回：多職種連携・協働に求められる基本的能力
第24回：健康管理の意義と目的
第25回：こころの健康管理
第26回：身体の健康管理
第27回：労働環境の整備
第28回：介護福祉士を支える団体
第29回：介護福祉士の倫理
第30回：日本介護福祉士会の倫理綱領
定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

定期試験50%、課題提出（レポート等）50%

【授業科目名】 コミュニケーション技術B		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 木戸 里香
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 対人援助職に必要な人間関係を理解するとともに、専門性につながるコミュニケーション技術を習得することを目標とする。			
【授業の概要】 介護における人間関係場面での自己と対人関係の相互作用を理解し、対人援助職が介護場面で求められるコミュニケーション技術について演習を交えながら学ぶ。			
【授業計画】 第1回：介護におけるコミュニケーション オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第2回：利用者・家族とのコミュニケーション 利用者の意欲を引き出す方法 第3回：利用者・家族とのコミュニケーション 利用者と家族の意向を調整する技法① 第4回：利用者・家族とのコミュニケーション 利用者と家族の意向を調整する技法② 第5回：利用者の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーション障害の理解 第6回：利用者の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーション障害のある利用者への対応 第7回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術 高次脳機能障害 第8回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術 失語症 第9回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術 構音障害 第10回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術 認知症・若年性認知症 第11回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術 視力障害・聴力障害 第12回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術 知的障害・精神障害 第13回：チームのコミュニケーション チームのコミュニケーションの意義 第14回：チームのコミュニケーション 会議 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第3版 介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版 ISBN978-4-8058-5308-5			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験 50% 研究発表 20% 授業中のワーク提出 20% 授業への取り組み姿勢 10% 上記を総合して評価する。			

【授業科目名】 生活支援技術B (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 武内清・寺岡京子 山本貴啓・尾崎朋子 中嶋昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 ・様々な障がいに合わせて基礎介護技術を学び、なぜそれが必要なかを考えられる。 ・全身性・視覚障がい者が安心・安全で外出支援できる基礎的な支援が行える。			
【授業の概要】 障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障がいのある人の体験を通じて心理的な理解を深める。 本人だけではなく、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。			
【授業計画】 第1回：講義 オリエンテーション・視覚障害者（児）福祉の制度とサービス 同行援護の制度と従業者の業務 第2回：講義 障害者（児）に心理・障害疾病の理解 第3回：講義 障害疾病の理解・情報支援と情報提供 第4回：講義と演習 代筆代読の基礎知識。同行援護の基礎知識。校内歩行 第5回：演習 外出支援（駅周辺の歩行） 第6回：演習 外出支援（交通機関の利用） 第7回：演習 ロービジョン体験 第8回：講義 介護従業者の職業倫理。居宅介護概論・移動支援に係る制度とサービス 第9回：講義 障害者の心理。障害者福祉の制度とサービス 第10回：講義・演習 車いす及び装具等の理解。コミュニケーションについて 事故防止に関する心がけと対策 第11回：講義 聴覚・言語障害に応じた介護 第12回：講義・演習 生活行為の介助。姿勢保持について 重度肢体不自由者（児）における障害の理解。 第13回：講義 重複障害に応じた介護 第14回：講義 内部障害（心臓機能・腎臓機能・直腸機能障害） 第15回：演習 学外 移動支援の方法 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ・最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座編集委員 中央法規出版 ・介護福祉士養成講座8 第2版 生活支援技術Ⅲ 介護福祉士養成講座編集委員 中央法規出版 ・同行援護従業者養成研修テキスト 第4版 同行援護従業者養成研修テキスト編集委員 中央法規出版 ・ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編 第2版 ガイドヘルパー技術研究会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 試験 60% 提出物等 40%			

【授業科目名】 生活支援技術C (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 奥川あかり・西尾幸子 中嶋 昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 病気や障がいによっておこる生活上の困難や問題点を学び、介護のありかたを理解し、さまざまな障害に応じた生活支援技術を提供できるようになる。			
【授業の概要】 ・高齢者、障がいのある人の食生活を理解し、喫食者に配慮した食事を作成、調理ができる。 ・被服生活の支援の意義と目的を理解し基本的な裁縫ができる。 ・内部障害のある人の生活支援方法を説明できる。 ・居住環境整備の意義と目的が説明できる。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション、食品の調理性と調理の基本、高齢者の栄養と食事、介護食について 第 2回：高齢者・障害のある人の食事（食品・調理による配慮と工夫、視聴覚障害を持つ人への食介護） 第 3回：高齢者・障害のある人の食事（加工食品・常備食品の活用、普通食から介護食への展開） 第 4回：バランスのとれた食事、健康に過ごすための食事計画、楽しく食事をするための演出、まとめ 第 5回：被服管理（アイロンかけ・衣服の補修）、裁縫の基礎 第 6回：衣服の機能と変化、レクリエーションやリハビリのための小物制作① 第 7回：被服の素材・洗濯と保管、レクリエーションやリハビリのための小物制作② 第 8回：被服の衛生保持と管理・工夫、レクリエーションやリハビリのための小物制作③ 第 9回：知的障がい・発達障がいに応じた介護 知的障がいのある人と生活の理解、生活支援と環境整備、発達障がいのある人と生活の理解 第10回：発達障がい・高次脳機能障がいに応じた介護 発達障がいのある人の生活支援と環境整備、高次脳機能障がいのある人と生活の理解 第11回：高次脳機能障がい・精神障がいに応じた介護 高次脳機能障がいのある人の生活支援と環境整備、精神障がいのある人と生活の理解 第12回：精神障がいに応じた介護・まとめ 発達障がいのある人の生活支援と環境整備、まとめ 第13回：内部障がい等に応じた介護 肝機能障がいのある人の理解、生活支援と環境整備 第14回：居住環境の整備① 住まいの役割と機能、生活空間、快適な室内環境 第15回：居住環境の整備② まとめ 安全に暮らすための生活環境、高齢者・障がい者の住まい 定期試験			

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座編集委員 中央法規出版株式会社 9784805857663

最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 介護福祉士養成講座編集委員 中央法規出版株式会社 9784805857687

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

定期試験 60% ・ 提出物等 40%

【授業科目名】 介護過程Ⅱ (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎 朋子
【授業の回数】 15回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 1. 介護過程の一連の流れを理解し、実施・評価を知識・技術を統合して実践的に展開することができる 2. 対象者の特性に応じた介護過程の展開を理解することができる 3. 介護過程の展開におけるチームアプローチの意義について理解することができる			
【授業の概要】 対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開を、事例や実習体験から学び、アセスメント力、計画立案力を向上させ、実施・評価まで専門的な知識・技術を統合し、適切な支援を提供出来る実践力を養うことを目的とする。また、介護過程の展開におけるチームアプローチの意義と他職種連携の実際について、事例や実習体験を通して知ることで、介護のあり方を個別に合わせて考える。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション：介護過程Ⅰの範囲の確認と復習、受講者に望むこと・受講上の注意等 第 2回：介護過程の展開における課題と改善：実習Ⅰ－2の個別援助計画を振り返る（GW） 第 3回：介護過程の展開における課題と改善：実施状況・評価の記録から記述内容と方法を学ぶ① 第 4回：介護過程の展開における課題と改善：実施状況・評価の記録から記述内容と方法を学ぶ② 第 5回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開：アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例① 第 6回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開：アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例② 第 7回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開：アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例③ 第 8回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開：アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例④ 第 9回：介護過程の展開の実際：対象者の状態と生活に及ぼす影響① 第10回：介護過程の展開の実際：対象者の状態と生活に及ぼす影響② 第11回：介護過程の展開の実際：対象者の状態と生活に及ぼす影響③ 第12回：対象者の生活と介護過程の展開：対象者の特性と生活（在宅生活、一人暮らしなど） 第13回：対象者の特性と生活（疾患、障害、環境による） 第14回：介護過程とチームアプローチ：チームアプローチの意義、介護福祉士の役割 第15回：まとめ：介護過程の展開における対象者の理解と重要事項の確認 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図			
【学生に対する評価】 定期試験（60％）、課題提出、小テスト、事例の解説・発表（40％）を総合評価する。			

【授業科目名】 介護過程Ⅲ (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎 朋子・宮田 京子 中嶋 昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 1. 介護実習Ⅱを適切に振り返り、介護の課題を研究的視点で捉えることができる 2. アセスメント対象者の生活課題に対し、適切な援助とは何かを根拠を持って考える事ができる 3. 振り返りに基づいて、事例報告として抄録を作成し、一連の学習結果を発表できる			
【授業の概要】 介護実習を通じて学んだ事例を元に、介護過程の展開を振り返り、利用者のその過程を通して1人の利用者に向き合い、利用者の立場にたって、援助について個人及びグループワークで深く考える事で、より適切な援助の内容・方法を導き出せる能力を向上させる。担当した利用者の個別援助計画について、介護事例報告として研究的視点で取り組み、事例報告に必要な基礎的能力を身につける。			
【授業計画】 第1回： 1 内容と進め方 第2回： ・介護実習Ⅱ実践と振り返りを元に、個人の事例を研究的視点で取り組む 第3回： ・各自の事例研究は、指導教員の指導のもとに行う 第4回： ・各自の事例研究は、指導教員と相談の上、計画的に進めること 第5回： ・研究成果は抄録にまとめる 第6回： 第7回： 2 抄録の作成 第8回： ・抄録の構成は、指導の様式を参考にする 第9回： ・抄録の書式はA4サイズを用い、パソコン入力、Wordで仕上げる 第10回： ・書式の詳細は、各指導教員の指示に従い、指導の下に抄録を作成する 第11回： 第12回： 3 事例報告の評価 第13回： ・抄録の作成、提出 第14回： ・事例報告の発表（口頭発表） 第15回： ・事例報告の発表（パワーポイント作成）			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】			
【参考書・参考資料等】 最新介護福祉士養成講座9 介護過程 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【学生に対する評価】 抄録50％・発表20％・パワーポイント30％で評価する。			

【授業科目名】 介護総合演習Ⅱ (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 中嶋 昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 介護実習Ⅰ-1・Ⅰ-2を通して学んだ利用者に対する生活支援技術や多様なサービス形態の意義を整理し介護実習Ⅱに向けて統合していくための準備を行う。また、これまでの実習体験を包括的に考察し、体系的に理解する中で、自己の課題を明確化することの重要性を理解する。			
【授業の概要】 介護実習Ⅱに向けた自己の課題を明確化できる。介護過程の授業と連動した事例検討及び介護計画案のための基本的な技術が習得できる。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 実習Ⅰ-2の振り返りー実習Ⅰ-2で学んだこと①ー 第2回：実習Ⅰ-2の振り返りー実習Ⅰ-2で学んだこと②ー 第3回：実習Ⅰ-2の振り返りー利用者の全体像の振り返り①ー 第4回：実習Ⅰ-2の振り返りー利用者の全体像の振り返り②ー 第5回：実習Ⅱの事前学習ー情報収集について①ー 第6回：実習Ⅱの事前学習ー情報収集について②ー 第7回：実習Ⅱの事前学習ー介護過程、計画立案についてー 第8回：実習Ⅱの事前学習ー実習に向けての心構えと注意事項についてー 第9回：実習Ⅱの事前学習ー目標ー 第10回：実習Ⅱの事前学習ーレクリエーション①ー 第11回：実習Ⅰ-2 実習体験報告会準備 第12回：実習Ⅰ-2 実習体験報告会 第13回：実習Ⅱの事前学習ーレクリエーション②ー 第14回：実習Ⅱの事前学習ー介護総合演習における知識と技術の統合化ー 第15回：実習Ⅱの事前学習ーまとめー 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 最新 介護福祉士養成講座10 介護荘鳥合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 レポート及びワークシート等の提出物50%、発表会における資料作り、発表会態度等50%			

【授業科目名】 介護実習Ⅱ (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 尾崎朋子・宮田京子 中嶋昭典
【授業の回数】 回	【時間数】 172.5時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 1. ICFに基づいた参加・活動の視点から、支援の内容及びその必要性について理解し、利用者を生活の主体者として捉えた介護過程を展開していくための個別援助計画の立案・実施・評価ができる能力を養う 2. 学内で学んだ知識・技術を応用して、介護実践の為の基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じて適切な生活支援技術の活用ができる 3. 介護する上で必要な多職種の役割・責務について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する 4. 対人援助の基盤となる人間理解・社会人基礎力を身につけ、専門職としての、価値観・倫理観を形成する基本となる人間の尊厳について理解を深める			
【授業の概要】 学内の講義、演習等で学習した各科目の知識、技術を統合して、施設利用者との人間的な関わりを深め、指導者からの具体的な指導を受けながら、利用者のニーズを理解・判断し、適切な介護が実践できるよう学習する場である。介護過程を通した個別ケアの為の計画の立案及び実施・評価・再アセスメント、計画の修正を展開できる実践力を習得する。			
【授業計画】 23日間集中実習 + 帰校日 介護老人福祉施設、介護老人保健施設に分かれて実習を行う 個別援助計画の実施・評価までを課題とする ○利用者の生活上のニーズを把握し、課題解決の為の情報を収集する ○利用者の自立を促すような生活課題の情報を分析し、個別援助計画を立案、実施する ○実施した計画に問題がないか評価し、個別援助計画の実践とあわせて、レクリエーションの計画・立案・実施・評価を行う ○多職種との連携を学ぶ ○夜勤帯を体験する ○実習終了後、事例報告として抄録を作成し、事例報告会で発表する			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 施設実習指導者の評価と担当指導教員の評価を統合して評価する。			

【授業科目名】 発達と老化の理解B (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 宮田 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 高齢者に多い疾病を理解し、介護過程を学ぶ際の情報収集やアセスメントのエビデンスに役立てることができるようになる。			
【授業の概要】 成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を学習する。特に、高齢者に多い疾患や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響を学習する。			
【授業計画】 第 1回：老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 ① 第 2回：老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 ② 第 3回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 老化に伴う社会的な変化と日常生活への影響 第 4回：健康長寿に向けての健康 高齢者の症状・疾患の特徴 第 5回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（骨格系、筋系） 第 6回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（脳、神経系） 第 7回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（皮膚、感覚器系） 第 8回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（循環器系） 第 9回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（呼吸器系、消化器系） 第10回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（腎、泌尿器系） 第11回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（内分泌、代謝系） 第12回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（歯、口腔疾患、悪性新生物） 第13回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（感染症、精神疾患、その他） 第14回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 介護保険の特定疾病 ① 第15回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 介護保険の特定疾病 ② 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】		ISBN978-4-8058-5772-4	
最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 高齢者のからだと病気 杉山孝博 中央法規			
【学生に対する評価】 定期試験（60％）提出課題・小テスト等（40％）で評価			

【授業科目名】 障害の理解B (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 山本 貴啓
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 障害の原因となる疾患の種類と原因を説明できる。 疾患の特徴から生活機能障害をとらえ、介護過程に反映できる。 障害を持つ人の家族の支援、家族の介護力の評価を行い適切な支援ができる。			
【授業の概要】 障害の理解Aで学んだことを基盤にし、様々な障害をもって生活している対象者の状態を介護福祉士として正しく理解して支援できる事を目的とする。 よりよい介護過程、介護介入となるような知識を得ることを目的とする。			
【授業計画】 第1回：障害の理解A 振り返り 第2回：肢体不自由 第3回：呼吸機能障害1 第4回：呼吸機能障害2 第5回：循環機能障害 第6回：難病1 第7回：難病2 第8回：視覚障害 第9回：聴覚障害 第10回：精神障害1 第11回：精神障害2 就労移行支援等、社会資源を含めたサポート体制 第12回：発達障害 第13回：知的障害 第14回：家族への支援 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 「障害の理解」・介護福祉士養成講座編集委員会編集・中央法規・978-4-8058-5774-8 (障害の理解Aで用いたテキスト)			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験（60％）講義内で課すレポート（40％）			

【授業科目名】 こころとからだのしくみⅡ (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 早川 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 ①心身の機能低下が「身じたく」「移動」「食事」「入浴」に及ぼす影響について学習する。 ②体に及ぼす影響と生活動作の変化、対応方法等について学ぶ。			
【授業の概要】 「こころとからだのしくみⅠ」で学修した人体の構造や機能を活かし、心身の機能低下が生活に及ぼす影響を理解する。また、変化に対しての気づきや対応方法について学ぶ。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 移動に関連したしくみ（移動のしくみ） 第2回：移動に関連したしくみ（移動のしくみ） 第3回：移動に関連したしくみ（心身の機能低下が移動に及ぼす影響） 第4回：移動に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第5回：なぜ身じたくを整えるのか（身じたくのしくみ） 第6回：身じたくに関連したしくみ（心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響） 第7回：身じたくに関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第8回：食事に関連したしくみ（食事のしくみ） 第9回：食事に関連したしくみ（心身の機能低下が食事に及ぼす影響） 第10回：食事に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第11回：入浴・清潔保持に関連したしくみ（入浴・清潔保持のしくみ） 第12回：入浴・清潔保持に関連したしくみ（心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響） 第13回：入浴・清潔保持に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第14回：「移動」「身じたく」「食事」「入浴」について 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社			
【参考書・参考資料等】 最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ【第2版】、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社 等			
【学生に対する評価】 定期試験（60%）、小テスト及び提出物等（40%）で評価			

【授業科目名】 こころとからだのしくみⅢ (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 早川 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 ①「排泄」のしくみを理解し、その方の支援について学ぶ ②「睡眠」のしくみを理解し、質の良い睡眠をとるための支援について学ぶ。 ③「死」を理解し、終末期から「死」までの変化と特徴を理解する。 ④ 終末期ケアにおける医療職との連携を学ぶ。			
【授業の概要】 「こころとからだのしくみⅠ」「こころとからだのしくみⅡ」で学修したことを活用し、「排泄」や「睡眠」への心身の機能低下が生活に及ぼす影響を理解する。また、変化に対しての気づきや対応方法についても学ぶ。尚、誰もが避けられない「死」について介護に携わる専門職として、利用者とその家族、多職種及びチームメンバーとしての関わり方について学ぶ。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 第 2回：排泄に関連したしくみ（排泄のしくみ） 第 3回：排泄に関連したしくみ（心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響） 第 4回：排泄に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第 5回：薬の知識：薬の種類と正しい使い方 第 6回：睡眠に関連したしくみ（睡眠のしくみ） 第 7回：睡眠に関連したしくみ（心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響） 第 8回：睡眠に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第 9回：死にゆく人に関連したしくみ（「死」を理解する） 第10回：死にゆく人に関連したしくみ（終末期から「死」までの変化と特徴） 第11回：死にゆく人に関連したしくみ（「死」に対する心の理解）DVD視聴 第12回：死にゆく人に関連したしくみ（医療関係者との連携）DVD視聴 第13回：死にゆく人に関連したしくみ（死生観の発表） 第14回：死にゆく人に関連したしくみ（死生観の発表） 第15回：死にゆく人に関連したしくみ（まとめ） 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社			
【参考書・参考資料等】 最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社 「死ぬ瞬間」 E・キューブラー・ロス、読売新聞社 「改訂版現場で役立つ介護職のための薬の知識」尾崎秀子他、介護労働安定センター 「高齢者の睡眠とその障害」公益財団法人長寿科学振興財団			
【学生に対する評価】 定期試験（60%）、小テスト及び提出物等（40%）で評価			

【授業科目名】 医療的ケア B (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 宮田 京子
【授業の回数】 18回	【時間数】 25時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 ①たんの吸引や経管栄養法の実施前から終了までの利用者の観察ができ、急変時の対応方法が理解できる。 ②介護福祉士の免許の範囲と免許外の行為を理解する。 ③感染予防・安全管理体制等について基礎的知識を身に付ける。			
【授業の概要】 安全に確実なたんの吸引や経管栄養法を実施するための基礎的知識、技術を習得する。			
【授業計画】 第 1 回：たんの吸引で用いる器具・機材とそのしくみ 第 2 回：吸引の技術と留意点（吸引前の観察・利用者の準備） 第 3 回：吸引の技術と留意点（実施手順と留意点・吸引実施に伴う利用者の身体変化） 第 4 回：吸引の技術と留意点（医師・看護職への報告、片づけ方法） 第 5 回：たんの吸引に伴うケア 第 6 回：消化器系のしくみと働き 第 7 回：消化・吸収とよくある消化器の症状 第 8 回：消化・吸収とよくある消化器の症状の発表 経管栄養のしくみ 第 9 回：経管栄養で注入する内容と実施上の留意点 第10回：子どもの経管栄養と胃ろうの現状と課題 第11回：経管栄養に係る感染予防と経管栄養を受ける利用者や家族の対応 第12回：経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 第13回：経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持 第14回：経管栄養の技術と留意点（実施手順と留意点） 第15回：経管栄養に必要なケア（消化機能を促進するケア、体位を整えるケア） 第16回：経管栄養に必要なケア（口腔、鼻、胃ろう部のケア） 第17回：医療職への報告 第18回：記録の意義・内容と書き方 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 改訂介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト・一般社団法人全国訪問看護事業協会中央法規出版 ISBN978-4-8058-5250-7			
【参考書・参考資料等】 適宜プリント配布			
【学生に対する評価】 定期試験（50%）、提出物・小テスト（50%）で評価			

【授業科目名】 医療的ケア演習 (介護福祉分野における実務経験のある教員による授業科目)		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 早川京子・宮田京子
【授業の回数】 60回	【時間数】 120時間	【開講学年・時期】 通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 口腔・鼻腔吸引、気管カニューレ内吸引、胃瘻、経鼻経管栄養をシミュレーターを用いて効果的に演習ができ、5項目の技術を安全に確実に実施できる。			
【授業の概要】 介護福祉士が行う医療的ケアとして、喀痰吸引と経管栄養についての実技を安全に実施できるように演習し、技術テスト(5回)を受けることで、確実な技術を習得する。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 口腔吸引演習 第2回：口腔吸引演習 第3回：口腔吸引演習 第4回：口腔吸引演習 第5回：口腔吸引技術評価① 第6回：口腔吸引技術評価② 第7回：口腔吸引技術評価③ 第8回：鼻腔吸引演習 第9回：鼻腔吸引演習 第10回：鼻腔吸引技術評価① 第11回：鼻腔吸引技術評価② 第12回：鼻腔吸引技術評価③ 第13回：口腔吸引と鼻腔吸引のまとめ 第14回：気管カニューレ内吸引演習 第15回：気管カニューレ内吸引演習 第16回：気管カニューレ内吸引演習 第17回：気管カニューレ内吸引演習 第18回：気管カニューレ内吸引技術評価① 第19回：気管カニューレ内吸引技術評価② 第20回：気管カニューレ内吸引技術評価③ 第21回：胃瘻の演習 第22回：胃瘻の演習 第23回：胃瘻の技術評価① 第24回：胃瘻の技術評価② 第25回：胃瘻の技術評価③			

第26回：経鼻経管栄養の演習

第27回：経鼻経管栄養の演習

第28回：経鼻経管栄養の技術評価①

第29回：経鼻経管栄養の技術評価②

第30回：経鼻経管栄養の技術評価③

【テキスト名・著者名・出版社名】

改訂介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト、全国訪問看護事業協会、中央法規

【参考書・参考資料等】

随時配布

【学生に対する評価】

口腔吸引、鼻腔吸引、気管カニューレ内吸引、胃瘻、経鼻経管栄養の技術テスト（75%）

レポート及び学習状況（25%）